

山行報告書

報告書作成

2013年12月20日

山名 [山域]	御嶽山(木曽)	目的と方法	雪上訓練(歩行及び安全・生活技術の習得)
登山期間	2013年12/14(土)~15(日)	山行形態	1泊2日(テント泊)
参加人数	3班 5人		

行動記録 集合地(5:05発)=岡崎IC=土岐JCT=恵那峡SA(6:10-6:50)=上松町コンビニ(7:45-7:55)=元橋=おんたけ
 2240PKG(8:50着)--からまつ駅(9:30集合)--ゴンドラ三笠の森駅--田の原--幕営地着(11:45幕営完了)昼食後
 雪上訓練(12:40開始)アイゼン装着での歩行訓練 埋没体験 ビーコン探索など(16:00終了)~夕食(16:30~)
 各自で就寝
 12/15(日) 起床(5:30)朝食後~弱層テスト(7:30~8:00終了)~3班登山(8:30開始)--(休憩5分)--7合目(10:20-10:30)
 --8合目--9合目折返し--TS(11:15 1名着) TS(12:00 1名着) TS(13:00 1名着) 昼食後 撤収 TS(14:30発)
 ゴンドラ三笠の森駅着後アイゼン歩行にて下山(15:25開始)--2240PKG(16:00-16:20)=元橋=寝覚ホテル
 (17:30-18:40)=中津川IC=恵那峡SA(19:45-20:15)=岡崎IC=集合地(21:30着)解散



日誌

14(土) 比較的暖かい日が続いていたが 雪上訓練2日前からの寒波で十分な積雪だった。全体を通して曇り空。
 時折、雲の切間から青空が見えるものの 指先に冷たさが凍みた。テント設営など常に風の強さが付きまとう中での訓練となった。
 歩行訓練ではやわらかい雪の斜面をフロントポイントキック、シヤード、腰程度の雪の斜面ではラッセルの練習(ピッケルで胸前の雪をかき膝で押さえ足を踏込む)と雪庇の確認。埋没訓練では身体の形…顔面前空間の確保と膝の屈伸力で脱出を容易にする方法を、
 ビーコン探索ではゾンデ棒を用い、ビーコン保持者からの位置情報を常に細かく伝える事で時間短縮をする重要性を学んだ。
 15(日) 前日よりやや風が収まった感じの中、ショベルとスノーソーを使い四角柱を切出して弱層テストをする。手、肘、肩でショベルを置いた上からポンポンと各々10回叩き強度を確認。さらに目視で雪表から下40cm程の層の違いを観察。その後は王滝頂上
 登山を開始。5名のうち1名は日帰り訓練組のため、もう1名は体調を考慮しTS待機となり 3班は3名で他の班、数人と共にアイゼンを装着し出発。前者の踏跡をなぞり進む。雪は深い所で膝付近までだが かなりの人がすでに通った様子。
 選場所付近では他パーティーのテントがあり、滑落防止訓練中のパーティーの姿や7合目で折返し下山途中のパーティーの姿さほど急でもない登山道だが7合目で息があがり足が上らなく1名(50代女性)が他班のベテランHと下山のために別れる。
 さらに進むその先は 風が強く視界は開けず8合目で折返し組と上を目指す組に別れるが最終的には強者も9合目で折返し下山となった。各々TSに戻り昼食や荷造り後テントを撤収し三笠の森駅へ向かうも強風でゴンドラ停止を受けアイゼン歩行で2240PKGまで下る事となった。朝より腰痛発生の1名がスノーモービル下山。4名でスキー場を下り無事に到着。
 その後は同じルートをたどりR19に出て入浴をし中津川IC経由で夕食休憩の後 さらに高速道を軽快に走り岡崎に帰った。

感想 何と言ってもトレントの有難さ。吹きすさぶ風にあおられる事なく安心だった。そのため個人的登山史上初の真夜中お花摘みを決行意気揚々と済ませテントへ…と、ふと『ここで吹雪いたら迷うかも』と一抹の不安。後に経験者よりこのような場合は2ヶ頭ランプを用意し1ヶをテント入口に吊るしてから外へ出ると良い、と教えられ深く納得。サングラスの表面が凍り、ハイドレーションが凍り、鼻水が垂れ…その上、手袋を落とす初心者の失敗の数々に凹みながらも 合宿という機会を通して得られたものは大きいと感じた。
 自宅に帰り荷ほどきをしながら 雪もさる事ながら 風は本当に油断ならないと一人思い返し それにしてもテントの中での時間、ランタンの灯りの下でツツツと煮える鍋を囲んだ風景は湯気や匂いを伴って 経験した事のない冷たさの中、心暖まる記憶となった。

参加者名